

平成 31 年 2 月

児童発達支援センター ガイドラインによる自己評価
結果・改善点・公表方法等に関する報告

社会福祉法人こぐま福祉会こぐま学園
児童発達支援事業所 しろくま

【アンケートの実施】

- ・保護者アンケート調査 : 回収率 72% (11 人配布中 8 人回収)
- ・職員自己評価 : 職員 100% (3 人中 3 人回収)

【各項目に関する回答集計データ】

項目	調査からの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備 業務改善	保護者は高い確率 (90%以上) で適切と感じておられます。保護者より環境に関して、「床も清潔にしてあり、子ども達に危険がないように工夫されている」との声がありました。	同伴通園を行なっている当センターとしては今後も保護者に療育場面を見ていただき、保護者との連携の中で意向等を把握し業務改善につなげていきます。 安全面に配慮しながら、清潔で心地よい空間を目指していきます。
適切な支援の提供	保護者は保育所等との交流を除いて、概ね適切と感じておられます。 支援計画に沿った支援では、ほとんど (98%) 「はい」の回答でした。 保育所との交流は、「子どもはとても楽しみにしている」という意見と「行ったことがない」という意見がありました。	今後も満足いただけるように適切な支援の提供に取り組んでいきます。 保育所等との交流は、現在 5 つの園と 3 歳以上児に対して積極的に行っています。3 歳未満児に対しては、個別での交流や就園の相談にのっていきます。
保護者への説明等	保護者は、家族支援・保護者との連携支援・自己評価の発信は「わからない」「どちらともいえない」の割合が多かったです。それ以外では概ね適切と感じておられます。 保護者との連携支援ができていたとの回答は、職員からは 100%でしたが、保護者からは 20%に留まりました。	アンケートの結果からの保護者と職員の感じ方の違いは、保護者への説明や連携の時間が不足していると考えられます。今後、より説明を増やし保護者同士の連携の時間を見直していきます。
非常時の対応	保護者は、マニュアル・訓練に関して「どちらともいえない」「わからない」との回答が多かったです。	事業所では、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定しています。今後、より周知に取り組んでいきます。非常災害の発生に備えての避難、救出、その他必

		要な訓練は毎月行っており、保護者にも協力していただいています。今後も継続していきます。
満足度	保護者は、90%以上は楽しみにしていると回答あり、80%以上は支援に満足していると回答がありました。「とても楽しいようで、大好きみたいです。」という声がありました。	今後も利用者に寄り添い、利用者の満足度をより上げることに取り組んでいきます。

【まとめ】

児童発達支援事業所しらくまでは、医療的配慮が必要な乳幼児期のお子様への支援を行っており、年齢に合わせた保護者同伴通園での集団療育を行なっています。職員は、医療職と福祉職が一緒になりチームアプローチでの支援を行なっています。

同伴通園の保護者支援の中で、保護者同士の連携の必要性を感じて今まで取り組んでまいりました。今回のアンケート調査より、保護者への家族支援や保護者同士の連携支援に関して「できている」との答えは、職員と保護者との間に差が大きく、できていると感じている職員と裏腹に保護者の答えは4割の方が「どちらともいえない・いいえ・わからない」でした。この結果より、保護者への説明や連携の時間が不足していると考えられます。今後は、必要な説明を十分に行い、保護者同士の連携のきっかけ作りに力を入れていきたいと考えます。そして、非常時等の対応に関しましてもまだまだ説明不足などところがあるようなので、今後は保護者への説明を確実に行っていきます。

職員間では、事業所の取り組みを見直し、児童発達支援ガイドラインに沿って職員間の研修および外部研修等での職員の研鑽を進めていきます。施設の古さは否めませんが、利用者皆様の満足にもつながった子ども一人一人に合った支援を行ない、今後も継続して療育に取り組んでいきたいと考えております。

今後とも皆さまに満足いただけるセンターを目指して進めてまいります。